

南アフリカ為替週報

2022年8月18日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去1週間の動き＞

(8月11日～8月17日)

USD/ZAR: 16.1200～16.6900
ZAR/JPY: 8.08～8.26 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、予想に反し、明確に下落。対円では反発局面も見られたが、週を振り返って、結局、小幅に水準を切り下げた。ランド堅調継続を見込んだのは、南ア国債の堅調継続を想定したからだったが、12日の欧州勢参入前後までは続騰(利回りは低下)した南ア国債も、その後はほぼ一方的な軟調推移を続けた。11日以降も南アへの投資資金流入が続いていたのは、南ア国債の値動きからほぼ確実で、10年国債利回りは、一時、2ヵ月半ぶりの水準となる10.22%近辺まで低下(価格は上昇)、ランドも、対ドルで高止まりと言える値動きを続けた上、特に対円では5週間ぶりの高値を更新する堅調推移を見せた。状況が一変したのは、週明け15日、発表された中国の7月鉱工業生産、同小売売上高の明確な下振れがきっかけを与えた。資源需要低迷懸念を反映して、ランドの他、豪ドル、加ドルなどの所謂資源通貨が軒並み売り込まれた。翌16日にはランド安も一服し、対円ではむしろ明確な反発を見せたが、17日には、南ア準備銀クガニヤホ総裁の「(南ア)物価の天井は近いかもしれない」との発言(後述)がランド売り要因視された他、その後発表された南ア6月小売売上高の低迷、米7月小売売上高の上振れなどが重なり、ランドは明確に水準を切り下げた。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/11	9:30	鉱業生産(前年比)	6月	-8.0%	-5.0%	-7.2%r
	11:00	製造業生産(前年比)	6月	-3.5%	-3.0%	-1.8%r
8/17	11:00	小売売上高(前年比)	6月	-2.5%	-0.1%	+0.1%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう2週間の見通し＞

(8月18日～8月31日)

USD/ZAR: 16.200～16.800
ZAR/JPY: 8.05～8.30

向こう2週間の南ア・ランド相場は、方向感の交錯した横ばいから、反発を警戒。ランドに弱気になる要因は確かに存在する。ゼロコロナ政策の余波や(台湾などを巡る)米との関係悪化警戒感など、中国経済の先行きに対する懸念は現実的なもの。上述中国経済指標の悪化のみならず、中国人民銀行による利下げ(15日)も、中国景気減速=世界的な資源需要減退に対する警戒感を深め、実際に足元原油、金など貴金属、銅など産業金属といった資源価格は軒並み下落している。並行して、南ア経済そのものも盤石とは程遠い状況で、とりわけ電力供給不安(計画停電)解消の目途が立たないのは大きな不安材料。中心シナリオではないものの、ランド反発を警戒するのは、17日にランド続落のきっかけを与えた南ア準備銀クガニヤホ総裁の発言が「誤解」されていたと感じるから。同発言は、一部通信社に「インフレの天井は近いかもしれない」という見出しで伝えられたが、当該報の全文を読むと、発言の主眼は「誘導目標に向けた物価の減速は緩慢」「国内物価のリスクは上振れ方向に傾いている」「現在の物価上昇はより広範に亘る」など、むしろ、強いインフレ警戒感を示していた。唯一、期待インフレ率頭打ちの可能性に関する言及だけが「物価頭打ちの可能性」を示唆していたものの、正直、何故この見出しを選んだのか理解に苦しむ内容だった。また、足元資源価格の下落をけん引している原油には、イラン核交渉の進展=イラン産原油の国際市場への復帰に対する期待感が大きな重石となっている。有体に言うなら、南アの主要輸出産品である他の地下資源(プラチナ、鉄鉱石など)とは直接関係ない話でもある。

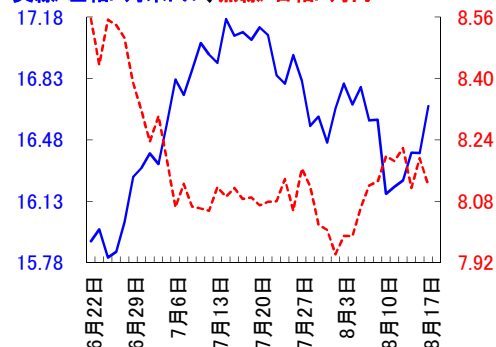
＜向こう2週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/23	9:30	失業率	Q2			34.5%
8/24	8:00	CPI(前年比)	7月			+7.4%
8/30	6:00	民間部門信用(前年比)	7月			+7.53%
	12:00	財政収支(ZAR)	7月			+73.8bn
8/31	12:00	貿易収支(ZAR)	7月		+30.0bn	+24.2bn

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

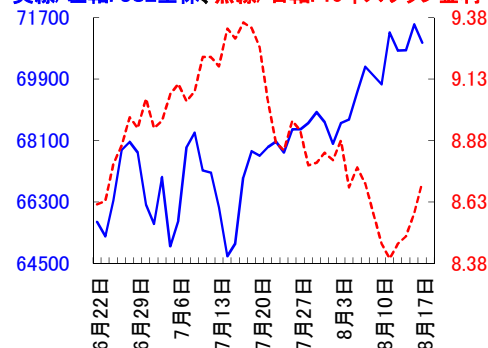
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		5.50%
長期金利(10年スワップ)	8月17日	8.710%
株価指数(JSE全株)	8月17日	70967.35
成長率(GDP/前年比)	Q1	+3.0%
経常収支(ZAR)	Q1	+143bn
失業率	Q1	34.5%
消費者物価(前年比)	6月	+7.4%
小売売上高(前年比)	6月	-2.5%
製造業生産(前年比)	6月	-3.5%
鉱業生産(前年比)	6月	-8.0%
貿易収支(ZAR)	6月	+24.2bn
金価格(ロンドン17:00)	8月17日	1762.13

＜お知らせ＞

筆者休暇のため次回の「南アフリカ為替週報」は9月1日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんが、よろしくご諒承ください。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。